

## 平成 20 年度農林水産政策研究所機関評価の結果

社会的な貢献	
<p>(評価)</p> <p>a 評価 ( 2 )</p> <p>b 評価 ( 3 )</p> <p>c 評価 ( 1 )</p>	<p>(評価に至った理由、改善すべき点等)</p> <p>a 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界食料需給見通し」など、社会ニーズに沿った研究成果を、メディア、学会、行政の3ルートを駆使して発信し、本数も増加した。情報発信に当たっては、広報のあり方の再検討やホームページの改善など創意工夫が見られ評価できる。学術的成果との両立が課題である。</li> <li>・学術的雑誌への発表件数が着実に増加している。「世界食料需給見通し」がヒットした点を評価したい。</li> </ul> <p>b 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究成果の発表状況は前二年度と比べ改善されている点を高く評価する。</li> <li>・情報発信への取り組みが著しく改善された。ウェブサイトについては更なる改善が可能である。</li> <li>・世界市場での穀物価格の上昇など、社会的関心の高いテーマの研究成果の広報などは高く評価できる。しかし、少子・高齢化の影響を取り入れた「食料フローモデル」の研究などで課題評価委員から低い評価を受けていることは問題点であろう。</li> </ul> <p>c 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報のあり方検討会の設置など、対外的な発信のスタイルに工夫の跡が見られる点は評価したい。ある程度の件数のあることが前提だが、マスコミで取り上げられたケースについては、研究テーマ別に集計してみることもあってよいのではないか。</li> </ul>

a : 非常に高い      b : 高い      c : 普通      d : やや低い      e : 低い

機関運営の状況	
( 1 ) 課題設定及び研究実施等における行政部局との連携状況	
<p>(評価)</p> <p>a 評価 ( 4 )</p> <p>b 評価 ( 2 )</p>	<p>(評価に至った理由、改善すべき点等)</p> <p>a 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本省の庶務課長会議を介して、研究課題・成果について行政部局と認識を常時共有する仕組みを作ったことを評価したい。今後は、研究成果がどのような形で行政に反映されたかをモニタリングしていく仕</li> </ul>

	<p>組みが必要であろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度までに比べても、ユーザー側(行政部局)の連携に対する評価が非常に高いことを勘案した。</li> <li>・「プロジェクト研究」、「行政対応特別研究」についての行政部局の評価の高さが目立つ。今後の行政部局の対応について検証を期待する。</li> <li>・行政部局から高い評価を得ていることは重要である。さらに、庶務課長会議に加えて研究成果の省内ミニ報告会を実施するなどの取り組みは大いに評価される。</li> </ul> <p>b 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究課題の行政部局との連携状況については高く評価できるが、研究成果の活用状況を見ると必ずしも充分とは言えない。</li> <li>・連携がうまく図られていると思われるが、課題によっては行政部局の評価を上げることもできそうである。</li> </ul>
<p>( 2 ) 人材の養成・連携状況</p>	<p>・確保、流動性の促進への取組、外部の関係者等との連携状況</p>
<p>( 評価 ) a 評価 ( 2 ) b 評価 ( 4 )</p>	<p>( 評価に至った理由、改善すべき点等 )</p> <p>a 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クローズアップ研究者の紹介は、人材の養成の観点から評価したい。外部との連携・交流についても改善が見られる。</li> <li>・厳しい定員制約の下での「世界食料需給モデル」の専門家の選考採用など、重点を置く研究の一層の充実に向けた対応は、高く評価できる。</li> </ul> <p>b 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人事交流について努力の跡が見られ、また、スペシャリストを確保するなど、前二年度に比べ改善されている点が高く評価される。</li> <li>・厳しい状況でよく取り組んでいる。期限付きなどでよい人材を確保している。</li> <li>・新規採用が困難な状況の中、客員研究員制度や外部研究機関との連携など人材の養成・確保に努力の様子が窺える。一方、専門スタッフ職の活用について、その内容・成果がみえてこない。</li> <li>・前年度も指摘したが、所内の人材確保については明確な中長期方針のもとで取り組むことが必要である。今のところ、ケースごとに何とか凌いでいる面もある。かなり具体例があるようだが、転出した旧所員とそのネットワークの活用も重要である。</li> </ul>

( 3 ) 研究課題に応じた機動的・効果的な体制の確保

<p>( 評価 )</p> <p>a 評価 ( 2 )</p> <p>b 評価 ( 3 )</p> <p>c 評価 ( 1 )</p>	<p>( 評価に至った理由、改善すべき点等 )</p> <p>a 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 庶務課長会議を起点にした課題設定、実行計画、行政対応といった一連の体制が整いつつあり、今後の成果を見守りたい。</li> <li>・ 研究領域ごとへの総括上席研究官の配置などは、高く評価できよう。</li> </ul> <p>b 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国家プロジェクトについては、他省庁が各々の役割分担を明確にしながら連携して研究課題に取り組まれているとのことであるが、政策研が霞ヶ関に移ったこともあり成果に結び付けていただきたい。</li> <li>・ 領域・チーム制への移行の段階が終了し、定常状態となったことを考慮して評価した。</li> <li>・ バイオ燃料、環境政策など大きなテーマへの取り組みはよい。図書を整備も評価できる。ただ個々の資金の配分や人的配分などは詳細な評価は困難である。</li> </ul> <p>c 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に問題なく順調である。</li> </ul>
---	---

a : 非常に良い    b : 良い    c : おおむね妥当    d : やや悪い    e : 悪い

総合評価

評価項目	評価結果
<p>( 評価 )</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p>( A 評価 ( 3 ) )</p> <p>( B 評価 ( 3 ) )</p>	<p>( コメント )</p> <p>A 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2018 年における「世界の食料需給見通し」や「バイオ燃料」関連の研究など、時宜に応じた極めて重要で難解なテーマに積極果敢に取り組み、広く社会に発信していきこうとする姿勢が見られる。大いに評価したい。</li> <li>・ 今後は行政や社会に対して問題を提起し、ソリューション案を提供するといったところまで踏み込むことも検討課題であろう。</li> <li>・ 「世界の食料需給見通し」をまとめたことが評価を上げたし、「経営安定対策」や「中山間地域振興」など、今日的で行政密着の研究が政策研のステータスを高めている。これからは、客観的、科学的な政策をいかに反映させていくかが課題になるだろう。</li> <li>・ 定員・予算の厳しい制約下で、行政目的と社会的ニーズに適切かつ効果的に取り組むための所全体としての努力</li> </ul>

は、大いに評価できる。但し、「ITQ導入に関する調査」などは、大使館等との連携や調査での外部専門家の活用などの工夫が必要であろう。

- ・ 農政問題の現代的重要性を踏まえると、その時々からの要請に応えるだけでは不十分で、研究所としてもっと自主的に研究成果の社会への広報を積極的に行うべきであり、その方向に向けての研究促進が不可欠であろう。

#### B 評価

- ・ 低炭素社会や食料需給に関するテーマは世界の国々における重要課題である。バイオマスや高収量作物、高機能食品に関する日本の先端植物技術は、いずれも世界トップレベルであり、これらの実用化に向けた政策の推進を図るため、農林水産省が強いリーダーシップを発揮されることを期待する。
- ・ 情報発信等について、著しい改善が見られる。移転等のハンディにもかかわらず健闘した。行政の政策形成支援、国際交渉支援における役割(ミッション)を明確にし、さらに積極的に取り組むべきと思われる。
- ・ 19年度の組織改革がほぼ定着したことを評価したい。
- ・ 行政部局との連携は非常に良好であり、高く評価したい。同時に、もっぱら政策研の主体的な判断によって設定される所内プロジェクトの質が問われる面もあるはずである。
- ・ 評価の前提となる事項として、政策研の設置目的は日本語としてお粗末である。行政の慣用表現の型にはめ込むのではなく、政策研が国民の資産であるとの見地に立って、一般に通用する表現に改めることができないものか。

#### 〔総合評価基準〕

総合的な評価として、次の3段階で評価を行う。

- A 妥当
- B おおむね妥当
- C 問題が多く改善が必要